

都市再生整備計画 事後評価シート
千代田市街地地区

平成24年2月

茨城県かすみがうら市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	茨城県		市町村名	かすみがうら市		地区名	千代田市街地地区			面積	311.6ha	
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	563	国費率	0.4			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名 ・道路／神立停車場線、市道㊦0456号線外、市道㊦0483号線、市道㊦0004号線 ・高次都市施設／地域福祉センター ・地域創造支援事業／地域福祉センター（健康づくりスペース、子育て支援部分）、コミュニティバス運行事業									
	当初計画から削除した	基幹事業	-			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		提案事業	-									
	新たに追加した事業	基幹事業	-									
		提案事業	-									
交付期間の変更	当初	-			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
	変更	-										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	神立停車場線の交通量	台／12時間	7,500台	18年度	7,700台	23年度	8,500台	○	あり なし	貨物自動車の増加割合が高いが、商業施設内を通行する車両は減少し、利用者の安全性の向上が図られ、併せて、コミュニティバス運行事業により利便性の向上が図られた。	
	指標2	子育て支援施設の利用者数	人／年	12,000人	17年度	21,000人	23年度	24,000人	○	あり なし	利用者数は順調に推移しており、同年代の子を持つ親の交流のほか、「孤育て」防止などの付帯効果もあったと思われる。	平成24年4月
	指標3	生活道路の満足度	%	7.1%	17年度	10.0%	23年度	11.1%	○	あり なし	地域福祉センター・稲吉ふれあい公園などへのアクセス道路の補修工事により歩行者や自転車の安全性と快適性の向上が図られた。	平成24年5月
	指標4	-								あり なし		
指標5	-								あり なし			
3)その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	歩行者・自転車数	人／日	294人／日	H18		412人／日			道路の整備により通行の安全性が向上し、商業施設周辺の歩行者・自転車の通行量が増加し、にぎわいのある都市空間づくりの創出に効果があった。		
	その他の数値指標2	-										
その他の数値指標3	-											
4)定性的な効果発現状況	東日本大震災の際、地域福祉センターは避難場所として近接の民間介護施設の一団の入所者を受け入れ、数日間にはわたり食事等を提供した。また、核家族世帯で公共交通機関の機能停止で家族が帰宅困難となったことにより、自宅に取り残された母子等が、家屋の損壊や不安感から自主的に地域福祉センターに避難し、子育てスペースは避難者であふれることとなった。地域福祉センターは避難所には指定されてはなかったが、耐震施設であり、バリアフリー構造であったため、本来の施設利用の目的を超えた大きな役割を果たすことになった。利用者からは「同じ年代の子を持つ親同士で子育ての悩みを打ち明けられる」「この施設なら同じ年代の子ども同士の交流ができる」などの意見があった。また、小規模ながら乳幼児の運動会を開催しており、その際には施設利用の高齢者も参加しており、世代を超えた交流が生まれている。											
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等	
	モニタリング	-				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加プロセス	-				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	持続的なまちづくり体制の構築	-				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						

様式2-2 地区の概要

千代田市街地区(茨城県かすみがうら市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標 「にぎわい」と「うるおい」のある安全・安心の中心地区整備 目標1 公共施設や商業の集積による「にぎわい」のある都市空間づくり 目標2 世代を越えた交流の促進による「うるおい」のある暮らしの創出 目標3 子どもからお年寄りまで安心して暮らせる都市基盤の整備	神立停車場線の交通量	単位: 台/12時間 7,500台 H18	7,700台 H23	8,500台 H23
	子育て支援施設の利用者数	単位: 人/年 12,000人 H17	21,000人 H23	24,000人 H23
	生活道路の満足度	単位: % 7.1% H17	10% H23	11.1% H23
		単位: H	H	H
		単位: H	H	H

○関連事業
地域公共交通システム
○内容/シャトルバス、デマンドタクシーの運行

■基幹事業
市道㊦0004号線
L=550m
○内容/舗装補修工事

■基幹事業
市道㊦0483号線
L=240m
○内容/道路整備工事

■基幹事業
市道㊦0456号線
L=653m
○内容/舗装補修工事

■基幹事業
地域福祉センター(コミュニティ)
□提案事業(地域創造支援事業)
地域福祉センター
(子育て支援、健康づくりスペース)
○内容/施設整備工事

まちの課題の変化
 神立停車場線の整備により、近隣の商業施設内を通り抜ける通行車両が減少し、また、周辺の歩行者・自転車の通行量が増えるなど、交通環境の安全性の向上と賑わい創出に効果があった。しかし、全区間の整備が完了しておらず、効果が完全には発現していない。今後は、通行車両だけでなく歩行者・自転車の増加促進に関する方策についても未整備区間の整備などにより、利便性の向上を図る必要がある。地域福祉センターや公園につながるアプローチ道路の舗装改修を行い、生活環境の安全性の向上が図られた。地域福祉センターの整備にあわせ設置された子育て支援施設では、様々な世代同士の交流やコミュニティの形成が図られた。また、東日本大震災の際には臨時的避難施設としても活用された。コミュニティバス運行事業により、交通手段を持たない住民の重要な足として、地域間交流を促進させた。また、平成22年10月から新たな交通システム「シャトルバス」「デマンド型乗合タクシー」に移行し、更なる利便性の向上が図られている。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)
 交通の利便性や安全性の向上を図るため、生活道路の維持管理に努めるとともに、神立停車場線の整備を引き続き推進する。地域福祉センターの利用者の維持を図るため、施設における小規模イベントの実施や、妊産婦及び乳幼児のいる世帯へのPRを行っていく。「シャトルバス」「デマンド型乗合タクシー」の利用者増加を図るため、PR活動を推進する。